



岡本勘造

芳川俊雄

夜叉鬼花遊仇夢  
五編大尾

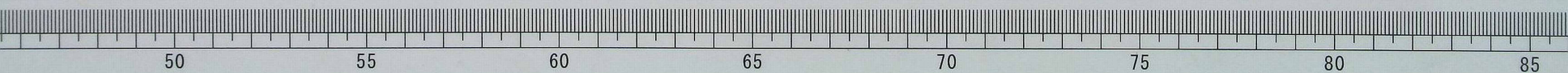
金松文庫

五編下

五編中

永島孟齋画

五編上



50

55

60

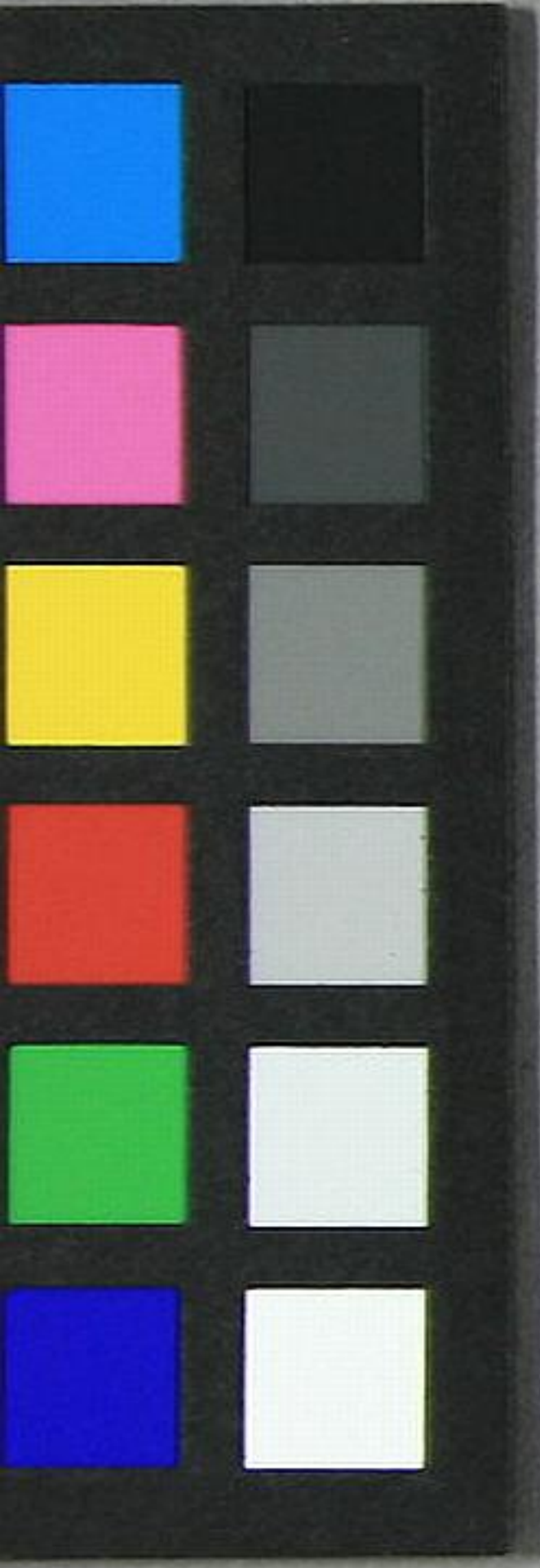
65

70

75

80

85



あしきおんなのあつめり  
夜嵐の鬼奴花廻仇夢  
五編大尾

五編上

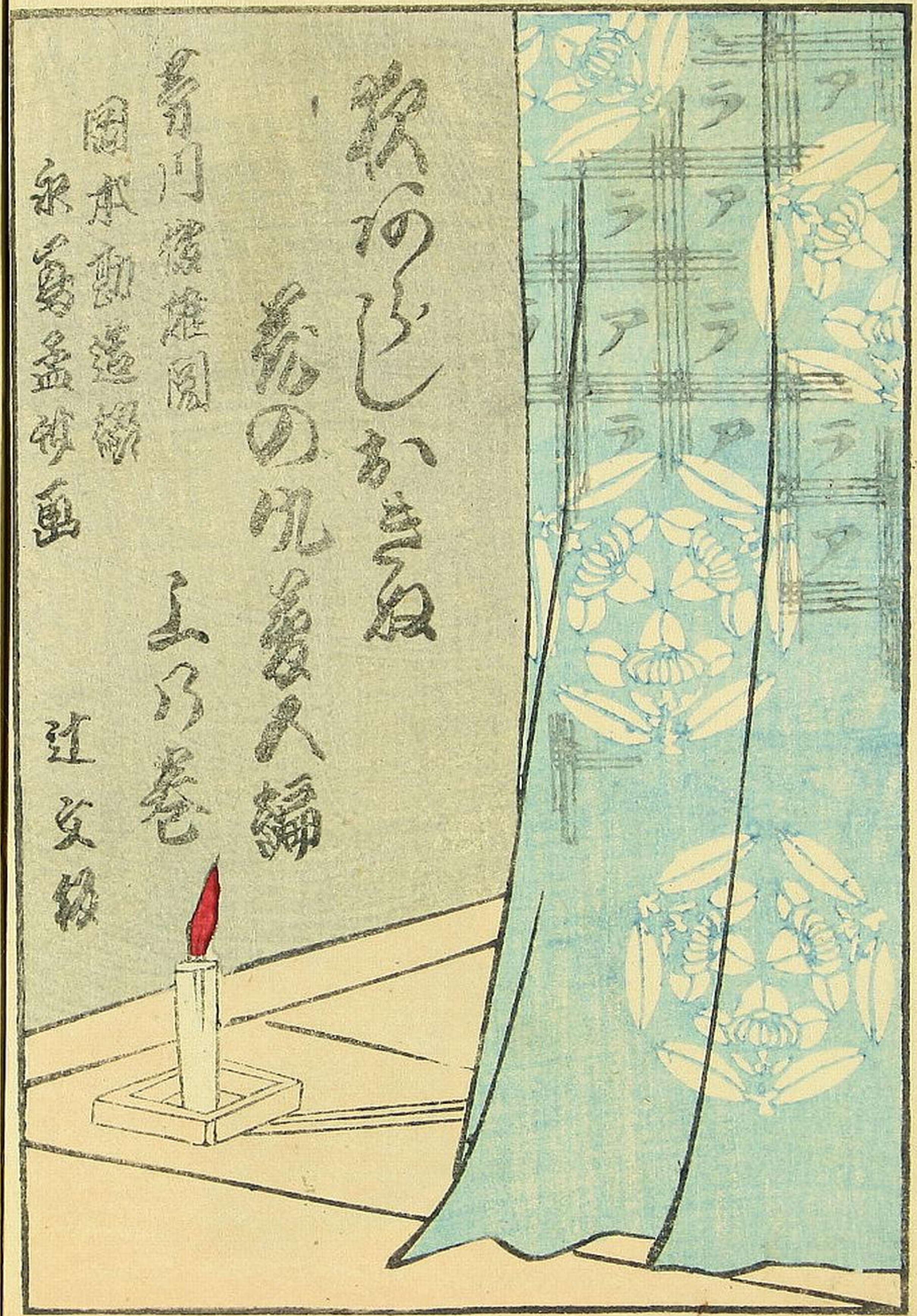


秋河はじかきぬ

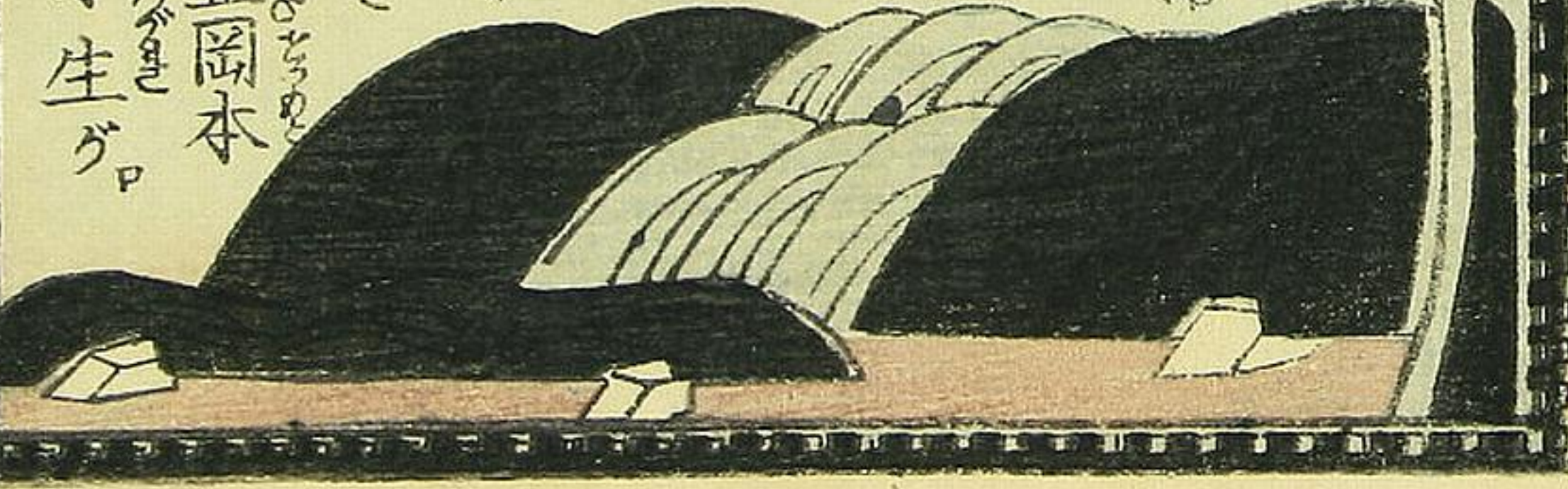
花の仇後入編

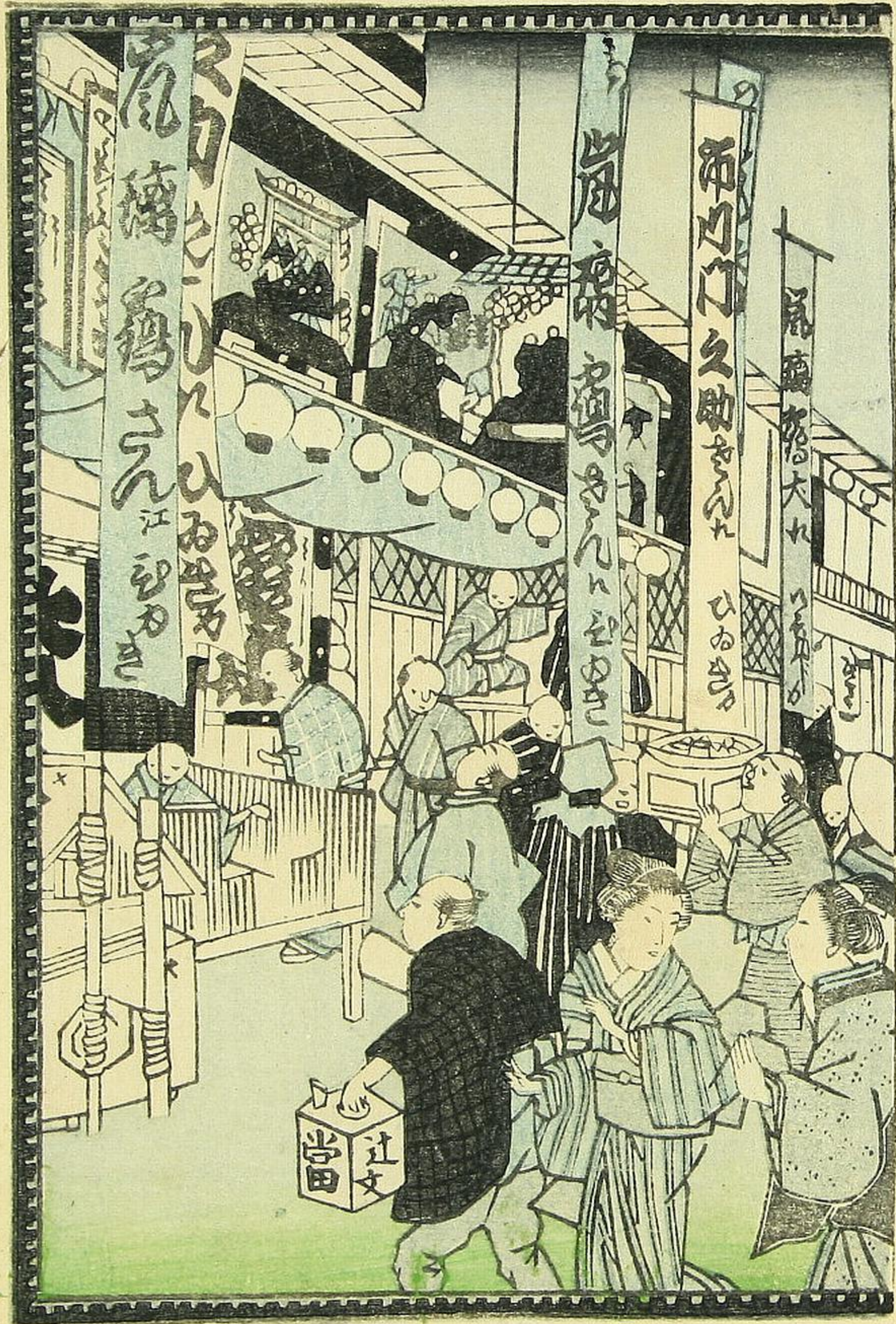
青川後推園  
ふり巻

園本御遺綴  
糸島孟枝画  
江文枝



夜嵐よさめて痕は花の夢の毒婦於鬼奴が  
最期の際に書遣一なる句まで。調いられと自らの悔悟  
の情がはらうまで最も憐れ不覚めての浮世の夢の人心  
笑ふもあれば泣くもあはる。喜怒哀楽の有為轉變  
一榮一枯の造化の配劑雨不萌出る柳の緑も風も乱  
る花のくさるあはれ色も浅ぬ言うて深い浅の多  
少の縁落はる同く谷川の水枯あられや戀無常流  
はは末と汲て知る。清き水昇り濁まるい沈む例を  
勸懲の基とて今爰に終り果たす毒婦の來歴岡本  
氏が艶美ある柳の枝乃筆端へ嗚呼のほくらも小生が



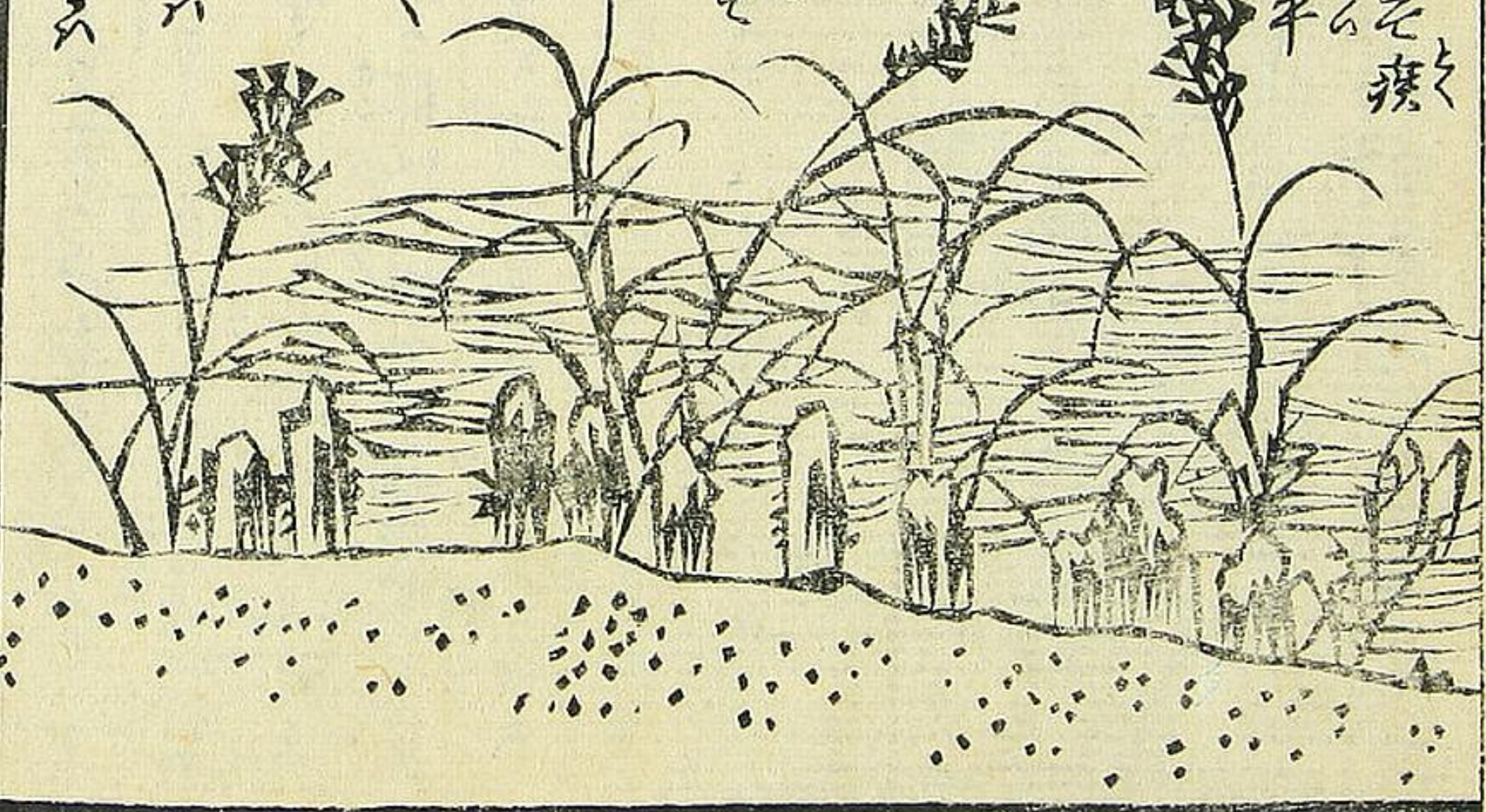


猿若町  
 三座  
 劇場  
 之場  
 榮之圖  
 繁

夜半五ノ上



けしき 嘉名の表せつりくすゝるいなきまを膝を疾  
 いねしうあともくと打押く声はまはしく金平  
 ちねがわりの雲霧さうあつねの事せ  
 虫が知じてあま中しうのみアおがうら  
 如依あまうらうと控縁の外に知らぬ  
 金平が「引け多しのゆりついでまゝしてわくの  
 子くゆえこれといふは是れあくあともいふは  
 とを割あけ「伏つて振まゝこゑあ  
 あつせ申しまゝこゝは杉櫛ゆい大層  
 お違う可くを不と用違ふ事を知つて違  
 ありうら 時ねよまあこのサと笑ひあつら  
 狂言通り火神の例の狂言をあめて「あまぬ  
 ぶししめらねこのつと「何と何とあまぬ入あまぬ



きまゝくまきちたあひく只今一寸「函にでも  
 けしき「アアアアアア  
 のごりあつら  
 おぢや  
 まゝ  
 まゝ  
 のお何あつら  
 ちうてあやうく「工何とも作「あまぬ  
 小畑てけこのお表とあめてま常のねて  
 ちあつら「までもあつら「何と「けしきお發せとやし  
 ますうら「けしき「お何のこことあつら「ま平時と打つたうら  
 今夜いさう油とつあつら「おつら「おつら「おつら

其のワリ  
 其のワリ  
 其のワリ  
 其のワリ

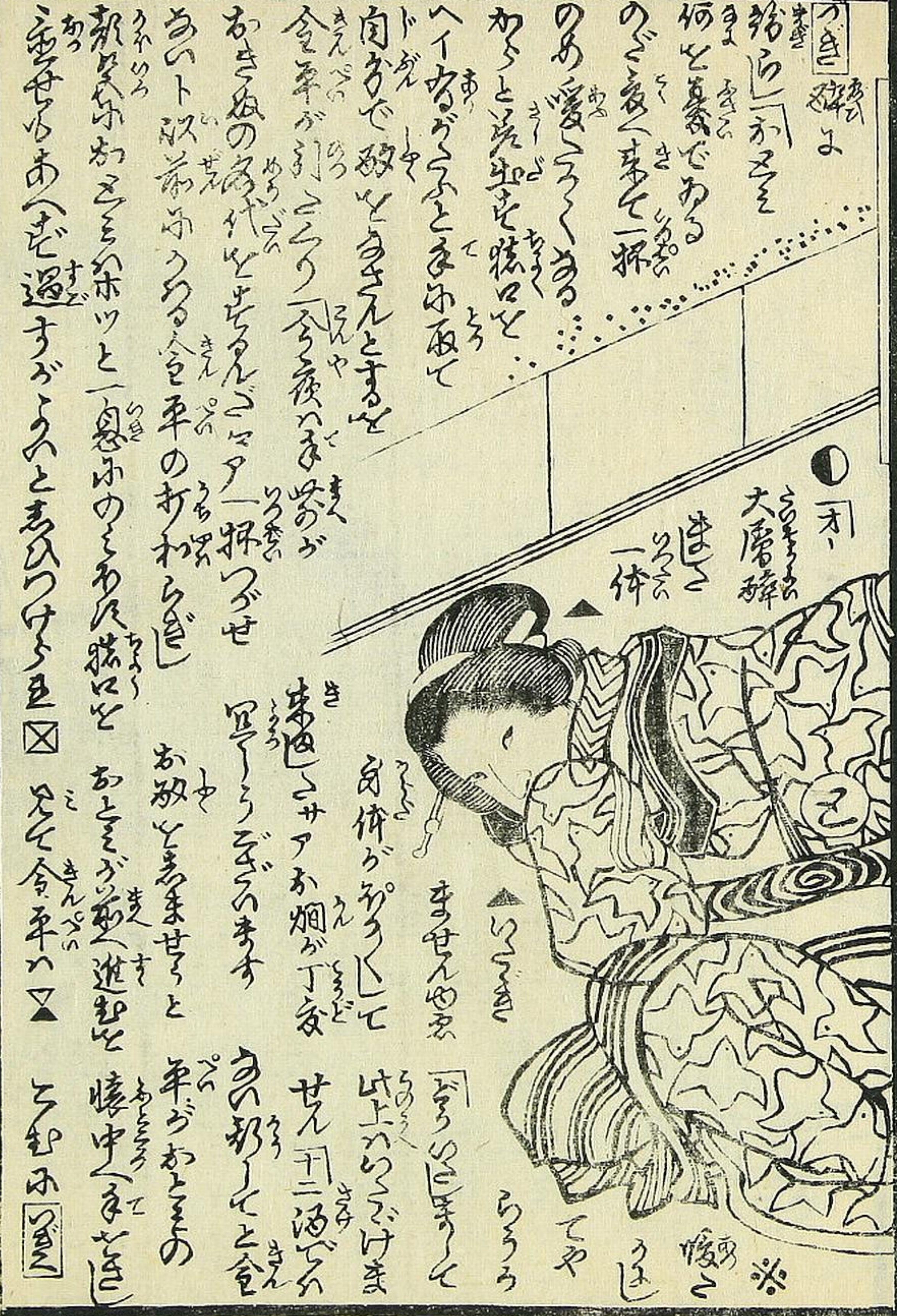
けしき「お何のこことあつら「ま平時と打つたうら  
 今夜いさう油とつあつら「おつら「おつら「おつら





雪と  
の打つ玉  
竹林のんて松  
のどが下へあき

暖  
ゆ  
う  
う  
う  
う

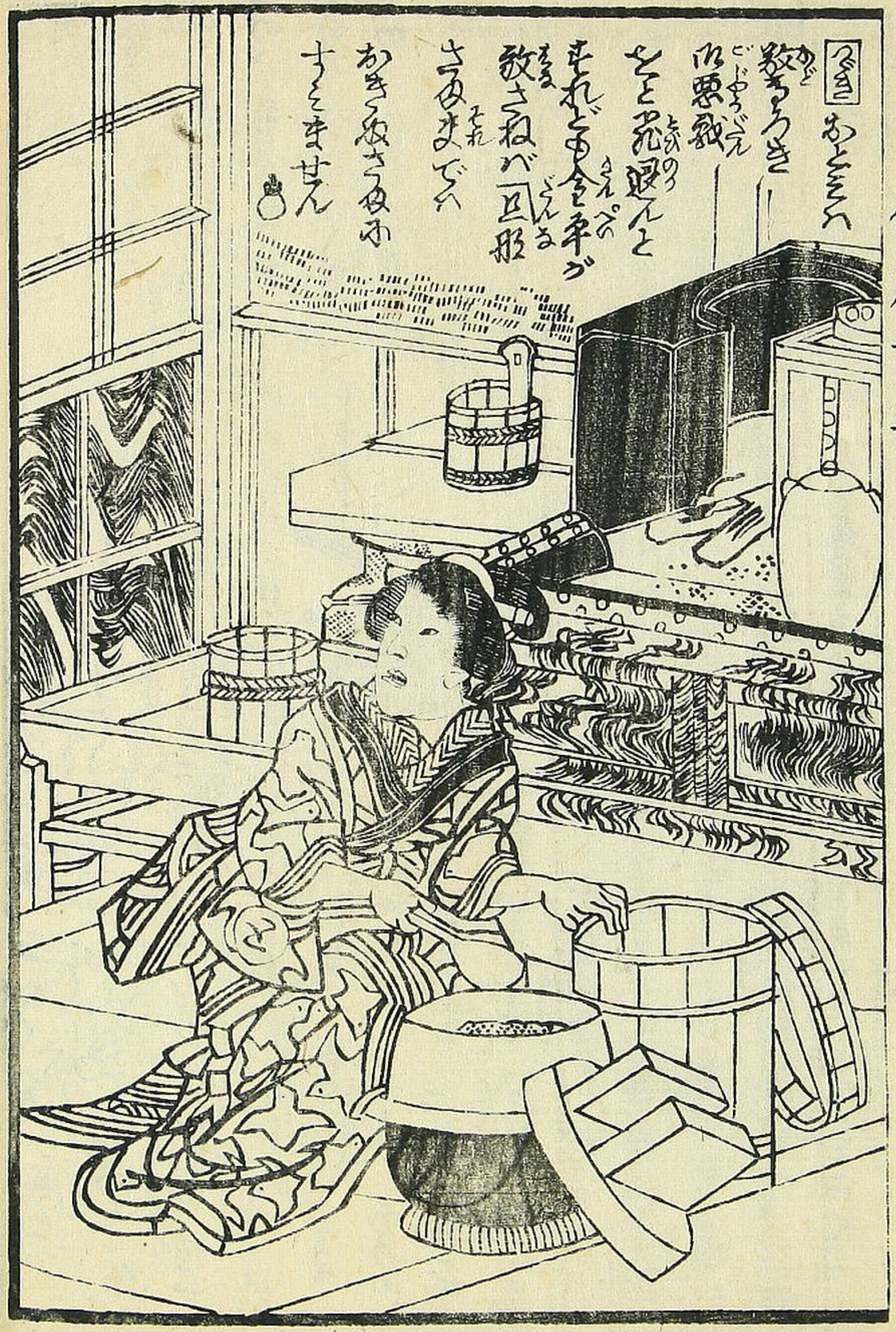


物ら「おま  
何を言ふで  
のど後へ来て一杯  
のめ愛ううくある  
かうと流石を懐くと  
へイカがうふとまゆ取て  
自分でもうとまゆと  
金平が引こりうう夜のま  
おきぬの代をまゆとマ  
あいつ取前ふううの金平の打わら  
新いおまのホツと一息ふの  
おまのあはれ過すううとまゆ  
つけら五

○オ、  
大層  
一休

まゆとまゆと  
おまのあはれ過すううとまゆ  
つけら五  
おまのあはれ過すううとまゆ  
つけら五  
おまのあはれ過すううとまゆ  
つけら五





おきく  
 教へるうき  
 此器  
 七と花眼にと  
 それとも金糸が  
 教へねば一匹形  
 さぬまいでい  
 おきくぬさうぬぬ  
 すこません



○十二市の富生阿麻呂に後夜を  
 ひるものうらつて来しうらひは折檻せぬや  
 までの足形さる形が困りますうらひは  
 らぬやに形さるうらひは困りますうらひは  
 おふさへ柳あやうね柳あやうね  
 さく奴ぞいさの己うらひは困りますうらひは





おけしを  
 きてき  
 うき物なら  
 て室の一  
 おせん  
 来はく  
 さんと  
 何処の  
 山形へ  
 何せ  
 と

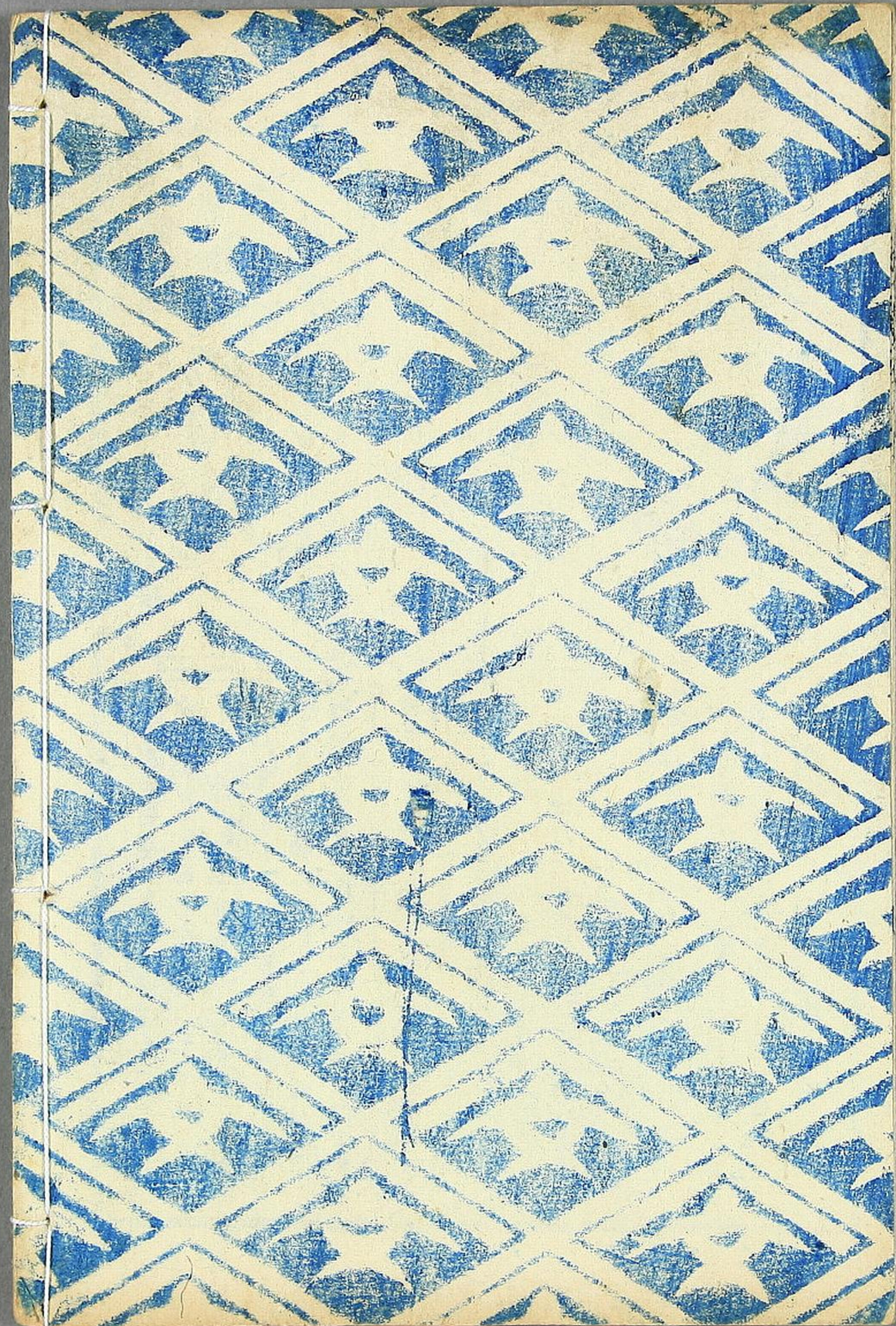
おせん  
 来はく  
 さんと  
 何処の  
 山形へ  
 何せ  
 と

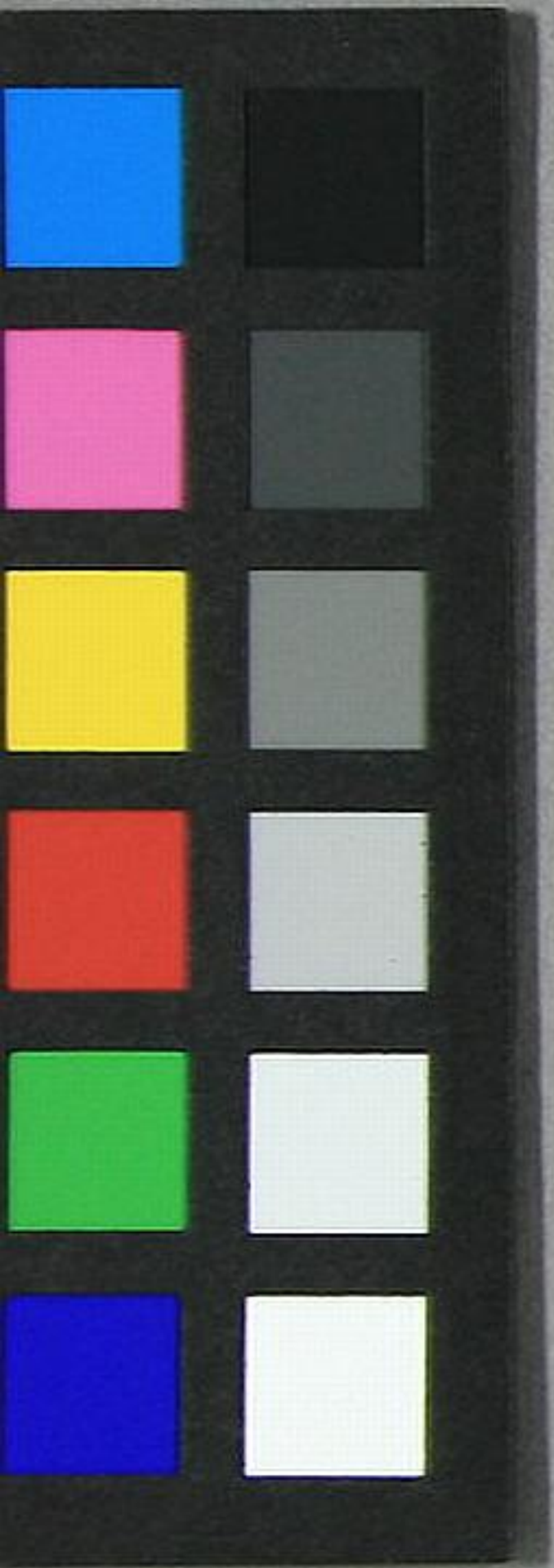


おせん  
 来はく  
 さんと  
 何処の  
 山形へ  
 何せ  
 と

おせん  
 来はく  
 さんと  
 何処の  
 山形へ  
 何せ  
 と







芳川俊雄間

永島孟齋画

五編中





芳川俊雄聞  
岡本勘造綴

永島孟齋画

新風 五  
花の 中  
あゝゆわ



08-2108

上分の... 新風... 花の... あゝゆわ... 永島孟齋画... 芳川俊雄聞... 岡本勘造綴... 新風五... 花の中... あゝゆわ

東風... 10

次へ

ついでに... 刀五匹... 折角... 人の服... 此の命... 遠く... くれど... ぬと...



必陽... あり... ぬと... 小林...

此す一間の内... ぬと... ぬと... ぬと...



ぬと... ぬと... ぬと... ぬと...













つぎ 款きふ物に換投由廿六日修正と帝と返世入  
 右方東のり入来り 驚き入て悔とて述之病中の様子  
 多と尋ね知らぬ事とて沙汰と世と依前にも  
 と借へるが四回とて世と借も来合してぬ  
 換由ぬ不審ゆひまは世況 款方一おぬ  
 廿六日しうと問うけられておぬぬ  
 帝と政と在ぬぬ打より日  
 止那の修世ぬぬは来ぬぬ  
 振敷とての只一入は世日  
 うり世て事とてさるる事  
 小文利士との方さる  
 さる曲けさる振がぬぬ  
 あつねが何ゆもぬ修の廿六日ぬぬぬぬぬ



名にが病の子とて  
 病ふぬぬ女子とてぬぬ  
 死人と扱ふぬぬぬ  
 味ははとてとて  
 何れ持てててて  
 帝の病ふぬぬぬ  
 帝の病ふぬぬぬ  
 うり世と世と

とて知らせるぬぬぬぬぬ  
 日修の病相後にはぬぬぬ  
 今又あつぬぬぬぬぬぬぬ  
 あつねが何ゆもぬ修の廿六日ぬぬぬぬぬ  
 帝と政と在ぬぬ打より日  
 止那の修世ぬぬは来ぬぬ  
 振敷とての只一入は世日  
 うり世て事とてさるる事  
 小文利士との方さる  
 さる曲けさる振がぬぬ  
 あつねが何ゆもぬ修の廿六日ぬぬぬぬぬ

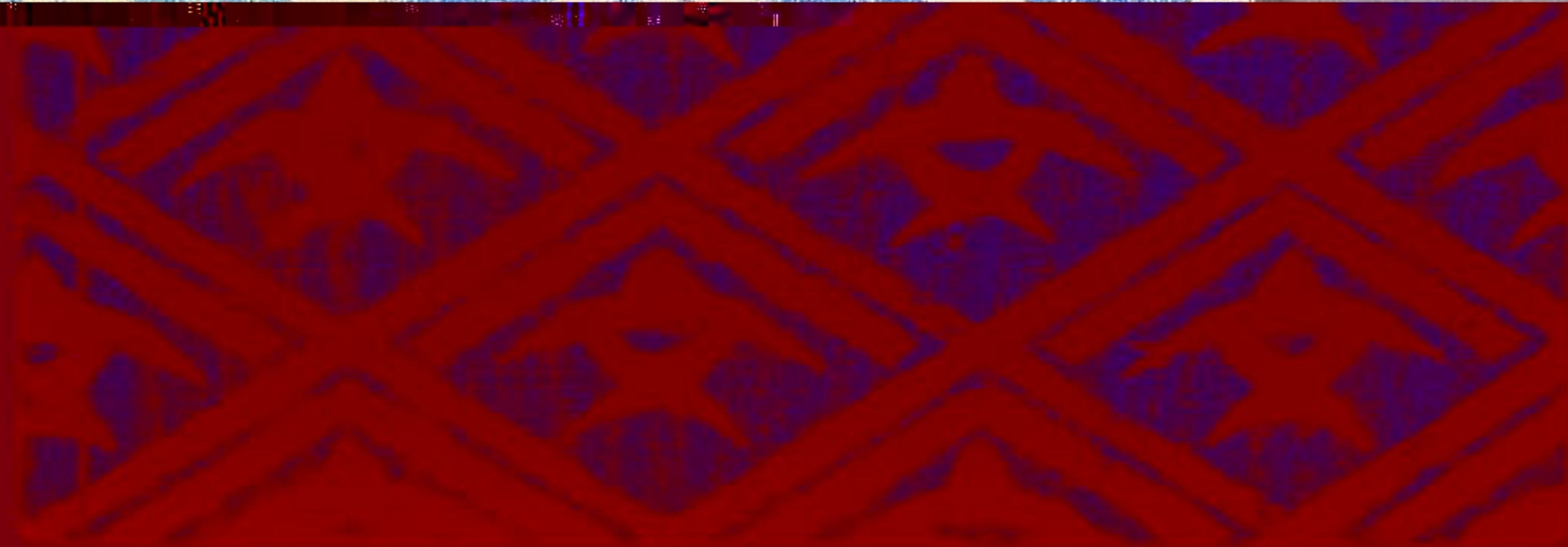


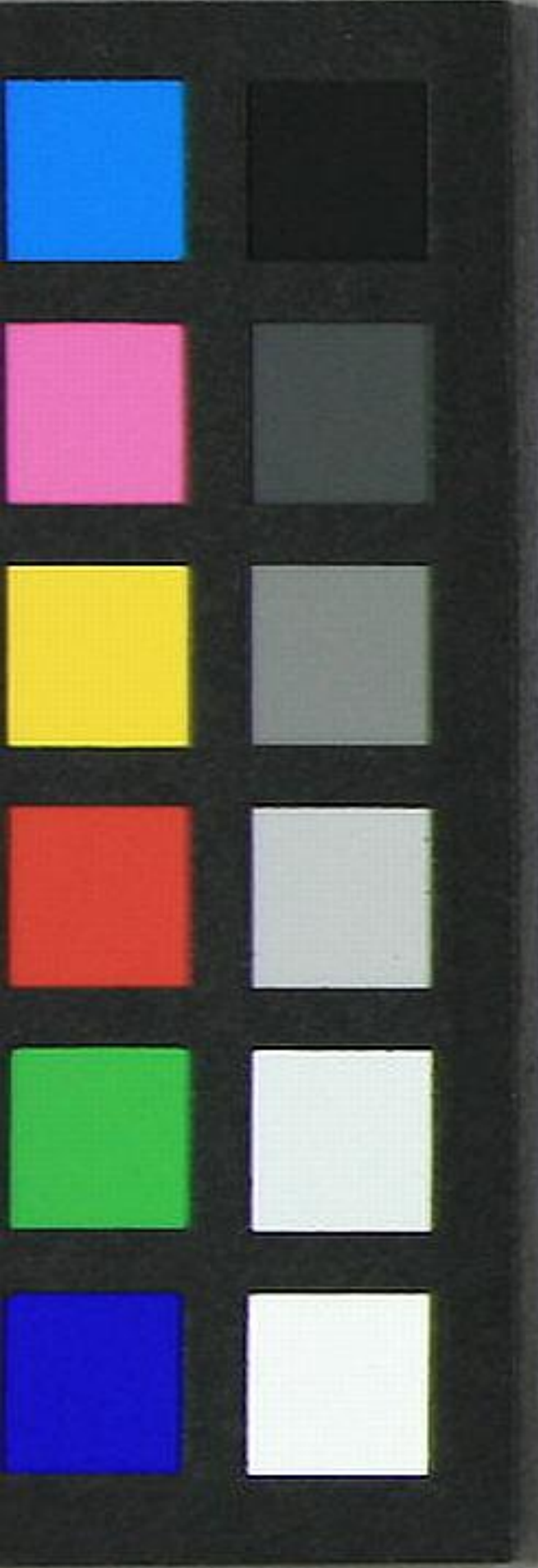
帝の病ふぬぬぬ  
 帝の病ふぬぬぬ  
 うり世と世と











岡本勘造

金松文庫

五編下





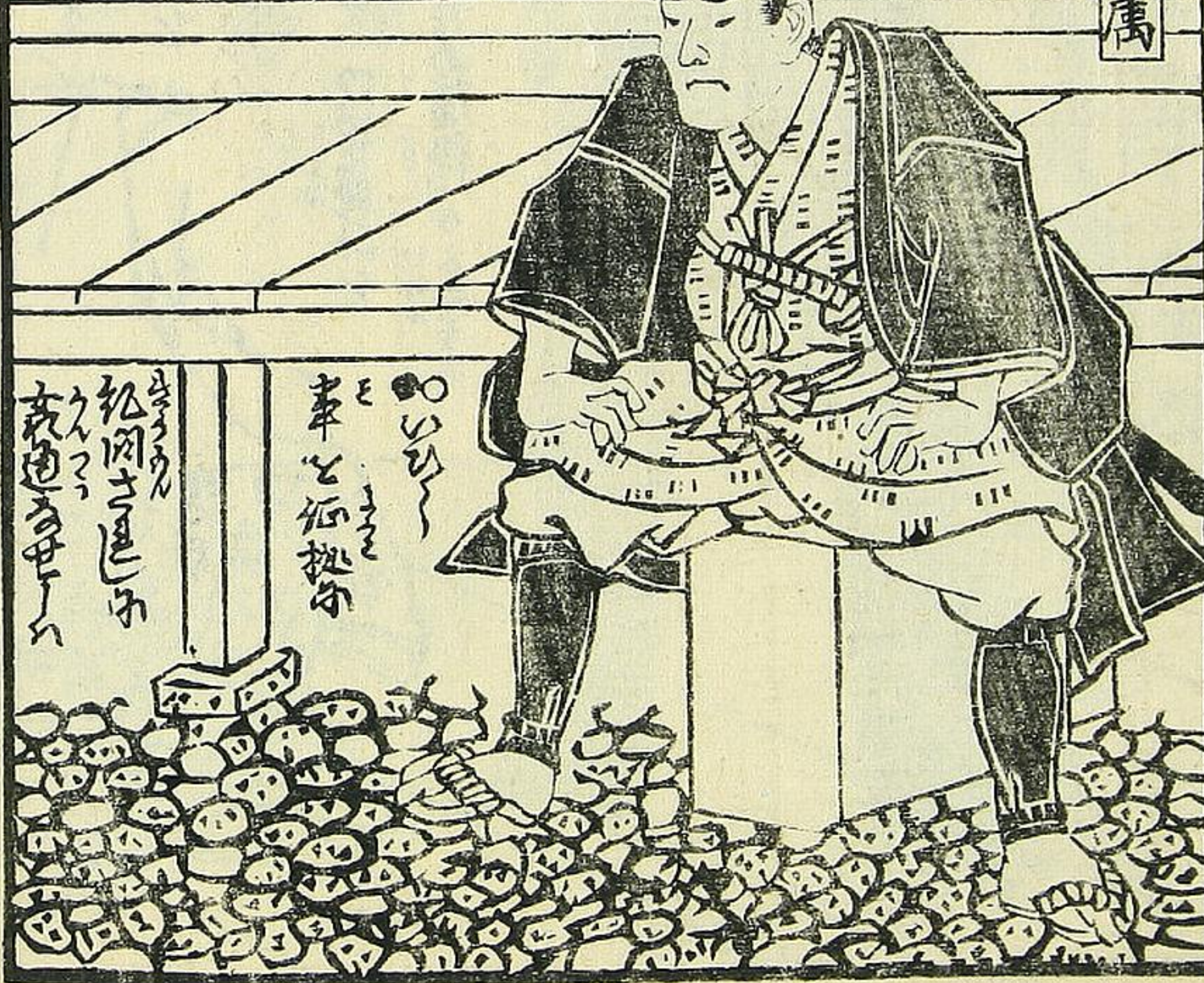








木村少属



徳田雑少属











國語彙編... 或とたりふ引... 何れとん... 生れと二入... して... 多り... 〇以外... 竹... 格... 出...

銅版開化玉編全

開化女用文章全

近世紀聞

取引要文全

義烈回天百首全

金花七變化

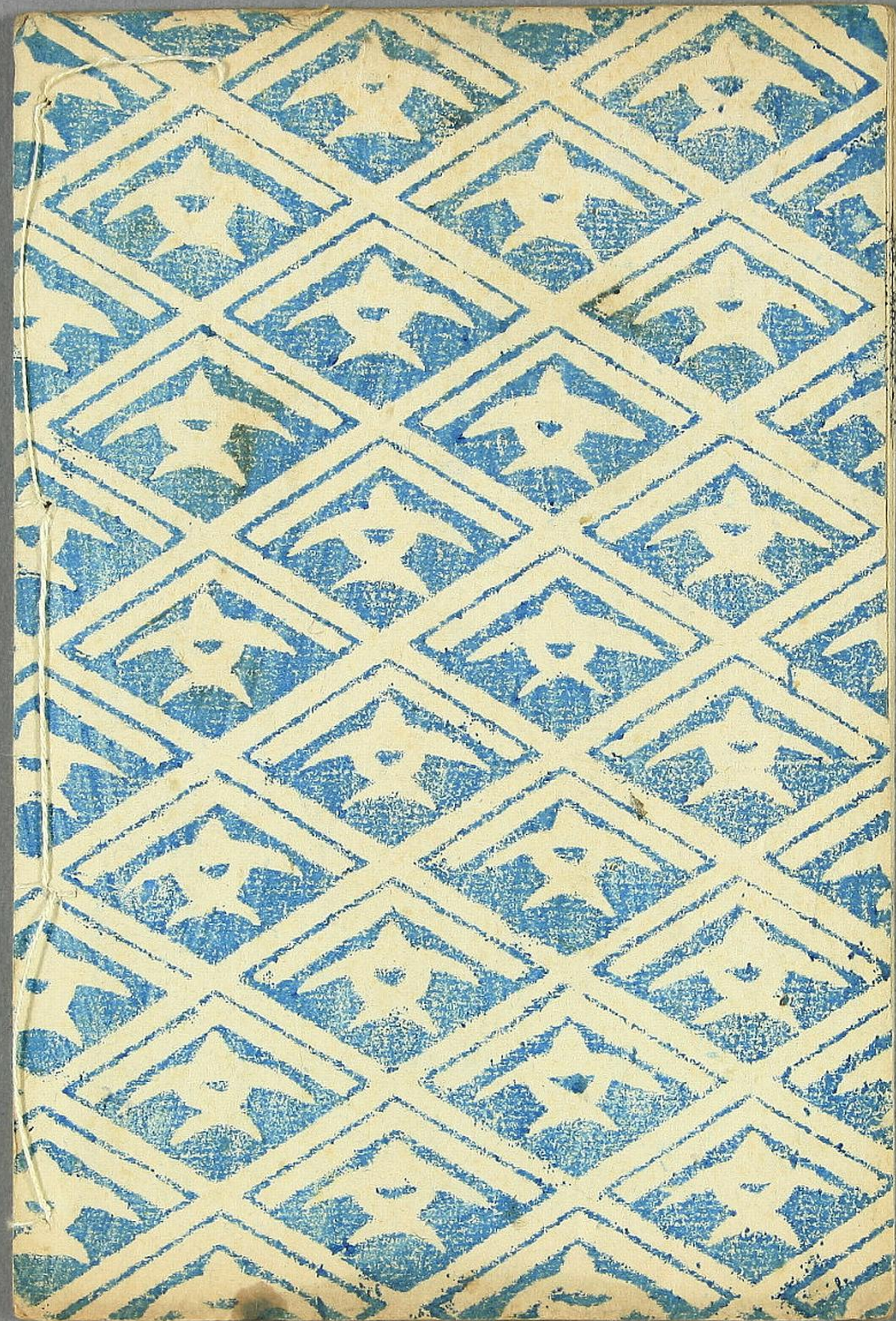
東京全圖全

濡衣女鳴神

文 地本 錦繪 問屋

編輯人 岡本勤 造

010190508566



ふりしをかきぬまのあつるを

松竹梅の三つ葉

ゆゑに大尾

芳川後越園

岡本勘造作

永尊孟海画



金松文庫

55

60

65

7